

平成29年12月4日付【水道産業新聞】
 <下水道のICT活用テーマに研修>
 管路調査、雨水管理の新技术を紹介

下水道のICT活用テーマに研修

水コン協 管路調査、雨水管理の新技术を紹介

全国上下水道コンサルタント協会（水コン協）は11月7日、東京都渋谷区のけんぼプラザで2017年度技術研修会「管路調査・雨水管理等におけるICTの活用」を開いた。講演と会員企業の

先進事例の報告、ディスカッションを通じて、コンサルタントと異業種の連携による新技术の開発など、最新動向について情報を共有した。

基調講演は、井上茂治・国土交通省国土技術政策総合研究所下水道研究



会員の先進事例報告も

部長が「下水道技術に関する最近の動向について」と題し、国交省の進めるi-Gesuidoなどの取り組みを紹介。今後、排水水質監視による感染症の予兆把握や、高齢者世帯の見守りなど他分野との連携を検討していくとした。

特別講演では、山田茂治・川崎地産首都圏事業本部保全部長が「老朽化

下水管による陥没被害防止を目指して「空洞探査の観点から」として、従来の浅層対応型地中レーダ技術を深層対応型に改良し、管路に起因する初期の空洞やゆるみを早期に発見する新技术を紹介した。

先進事例については、日水コンが、クラウド型台帳システム「BitzGIS」を活用した施設管理や降雨レーダとBitzGISを使った雨水管理、ドローンを活用した中大口径管きよの点検調査について報告。

NJSは、リアルタイム浸水対策システム、LPWA（省電力広域無線）による管内水位観測システム、管きよなど閉鎖性空間専用の無人航空機の開発について紹介した。

デイスカッションは、高島英二郎・水コン協技術・研修委員長の進行で、日水コンとNJSに対し、新技术普及への展望などについて質疑応答が行われた。